

スポーツにおける集団凝集性尺度の標準化に向けて

中村武彦（静岡大学大学院）

1. 目的

本研究の目的は、スポーツにおける集団凝集性尺度の標準化に向けて、Carron のモデル(1982)に基づき、仮説検証的な因子分析を用いた質問紙を作成し、標準化に向けて検討することを目的とした。

2. 第1調査

1) 目的：尺度の項目精選

2) 方法

- (1) 対象者：全国の4高校・5大学の1370名
- (2) 時期：2018年7月上旬～同年9月上旬
- (3) 調査用紙：①フェイスシート、②織田ほか(2007)の再検訂版尺度21項目、③阿江(1986)から7項目、④予備調査及び文献から12項目の計40項目。
- (4) 分析方法：最小二乗法、プロマックス回転(4因子解)による確認的因子分析が行われ、因子負荷量が.40以下の項目が除外された。

3) 結果及び考察

因子分析の結果、4因子13項目が抽出された。モデルの適合度指標として算出したGFI, AGFI, CFI, RMSEAに関しては、豊田(2008)の示す基準を満たすものであった(表1)。

クロンバックの α 係数は第4因子において若干低い値であったものの概ね良好な結果であった。

3. 第2調査

1) 目的：尺度の信頼性・妥当性の検討

2) 方法

- (1) 対象者：1高校・1大学の411名
- (2) 時期：2018年11月中旬～同年12月中旬
- (3) 調査用紙：①フェイスシート②第1調査で作成された集団凝集性尺度③チーム心理診断テスト(SPTT; 猪俣ほか, 1990)
- (4) 分析方法：第1調査同様の分析に加え、第1調査との相関関係を見る再テスト法による信頼性の検討と、SPTTと編相関係数の算出による基準関連妥当性の検討が行われた。

3) 結果及び考察

因子分析の結果、第1調査同様の因子構造が確認された。しかし、モデルの適合度は若干低い値であった。SPTTとの偏相関係数は、全因子において有意な偏相関がみられ、尺度の妥当性が確認された。

4. 総合考察

再テスト法によるPearsonの積率相関係数は、全ての因子において中程度の相関がみられるにとどまった。これは、再テストの期間が3~4か月空いたことが原因として考えられる。集団凝集性自体が歪みややすい変数であることを十分に考慮した上で、再度、再テスト法による安定性の検討が望まれる。

5. 結論

本研究では、スポーツにおける集団凝集性尺度の標準化を目指したが、因子分析の結果、因子構造は確認されたものの、再テスト法で尺度の安定性が確認されず、目的である標準化にまでは至らなかった。しかしながら、因子の内的一貫性、SPTTとの偏相関係数による基準関連妥当性は確認された。

6. 主な参考文献

織田憲嗣・山本勝昭・徳永幹雄、スポーツにおける集団凝集性の構造検証ならびにパフォーマンスとの関係、財団法人ミズノスポーツ振興会スポーツ医科学研究助成報告書：2007

表1. 第1調査因子分析結果

第1因子 集団-課題：課題的側面に対する集団の一体感 ($\alpha=.844$)	1	2	3	4
23 我々のチームのメンバーはチーム目標が一致している。	.889			
15 我々のチームは一致団結して目標を達成しようとしている。	.827			
3 我々のチームは勝つためにまとまることのできるチームである。	.663			
19 我々のチームは試合で負けたり成績が思わしくない時は、チームのメンバー全員が責任を感じる。	.570			
第2因子 集団-社会：社会的側面に対する集団の一体感 ($\alpha=.872$)				
28 我々のチームはメンバー間の人間関係が良いと思う。	.915			
20 我々のチームの仲は親密であると思う。	.790			
16 我々のチームは仲良く和気あいあいとしている。	.658			
24 我々のチームはチーム活動以外でも、メンバーはお互いうまくやっっている。	.653			
第3因子 個人-課題：課題的側面に対する個人的魅力 ($\alpha=.795$)				
6 私は競技面で尊敬できるチームメイトや指導者がチームの中に数人いる。		1.030		
26 チーム内に私の憧れるチームメイトや指導者がいる。		.544		
第4因子 個人-社会：社会的側面に対する個人的魅力 ($\alpha=.600$)				
1 シーズンが終わって、チームメンバーと会わなくなると、私は寂しい。			.654	
5 私はチームの中に親友が数人いる。			.558	
9 私は他のパーティ(飲み会・食事も)より、このチームのパーティの方が楽しい。			.456	
因子間相関				
	1	2	3	4
第1因子 集団-課題因子	1			
第2因子 集団-社会因子	.706	1		
第3因子 個人-課題因子	.539	.458	1	
第4因子 個人-社会因子	.606	.682	.549	1

GFI=.962, AGFI=.943, CFI=.965, RMSEA=.059